

令和 1 年度 事務事業評価シート

事務事業の概要・計画 (PLAN)

事務事業名	文化交流センター事業	会計名称	一般会計		担当課	社会教育課	
		予算科目	10 款 5 項 7 目	事業番号	4893	所属長名	山岡慎司
事業評価の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 評価対象事業 <input type="checkbox"/> 評価対象外事業 (事業の概要・結果のみ)				担当責任者名	田村政幸	
法令根拠等	伊予市文化交流センター条例				実施期間	【開始】	令和/平成 1 年度
総合計画での位置付け	生涯教育都市の創造 個性豊かな文化の振興					【終了】	令和 年度(予定) <input checked="" type="checkbox"/> 設定なし
総合計画における本事業の役割	文化活動の推進						
事業の対象	市民			事業の目的	より多くの市民が文化・芸術に対する関心を高められるよう、優れた文化活動や芸術作品に接する機会を提供し、また、市民が自由に活発な芸術活動ができる環境づくりを行う。		
事業の内容 (整備内容)	・市民総合文化祭支援・市民和太鼓楽団発足支援・文化ホール関係イベント支援他			昨年度の課題に対する具体的な改善策	特になし		

事業活動の内容・成果 (DO)

事業費及び財源内訳 (千円)							事業活動の実績 (活動指標)					
項目	前年度決算	当初予算額	補正予算額	継続費その他	翌年度繰越	決算額	項目	単位	前年度実績	1年度予定	9月末の実績	1年度実績
直接事業費	0	3,640	0	0	0	1,795	市民文化祭	人		10000	0	10379
財源内訳						0						
国庫支出金						0						
県支出金						0						
地方債						0						
その他						0	文化交流センター自主事業	人		100	55	106
一般財源	0	3,640	0	0	0	1,795						
職員の人工(にんく)数	0.00	1.10				1.10						
1人工当たりの人件費単価	7,982	7,992				7,992						
※ 直接事業費+人件費	0	12,431				10,586						
主な実施主体	直接実施		実施形態(補助金・指定管理料・委託料等の記載欄)		和太鼓楽団に伴う講師謝礼(60千円)、文化祭実施に伴う負担金(1,400千円)							
向こう5年間の直接事業費の推移(千円)					2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	5年間の合計		
					5,873	5,000	5,000	5,000	5,000	25,873		
成果指標	指標	活動指標事業の参加者数	単位	⇒	区分年度	前年度	1年度	2年度	目標 毎年度			
			人		目標		10100	10300	10500			
	指標設定の考え方	本施設の基本理念「学びはぐくみ つながる 出会いのひろば」を目指し、取組む文化芸術活動等各種イベントへの参加者により、関心度・貢献度を計る。			実績		10485					
	指標で表せない効果	中心市街地活性化への効果、中山・双海地域との連携効果など										

事務事業評価 (CHECK)

新たな課題や当初の改善策に対する対応状況 (今年度の途中経過)		令和元年8月供用開始となる施設での事業のため、予定される事業を遺漏なく、かつ施設の魅力をPRできる事業としたい。									
事務事業評価	自己判定 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	5 4 3 2 1	施策の目的を果たすために必要不可欠な事業である。 概ね、施策の目的に沿った事業である。	4	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D	A	事業成果・工夫した点 事業の苦勞した点・課題	文化芸術の活動拠点「文化交流センター」完成により8月からプレオープンした。開館準備に追われる中、「文化交流センター基本実施計画」に沿って、アウトリーチ活動やオープン後の施設視察の受け入れ、お試し事業の推進、施設のPR等に積極的に取り組んだ。	
			社会情勢等への対応	5 4 3 2 1	この事業では施策の目的を果たすことができない。 社会情勢等のニーズに合致する。又は、行政管理上必要な事業である。 社会情勢に概ね適合する。又は、行政管理上、概ね妥当である。	4					
			市の関与の妥当性	5 4 3 2 1	社会情勢又は行政管理事務に対応しておらず、見直しが必要である。 市が積極的に関与・実施すべき事業である。 今のところ市の関与・実施は妥当と判断できる。	3					
		有効性	事業の効果	5 4 3 2 1	市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。 市民生活や行政内部の課題解決になっていない。	3	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D	A			
			成果向上の可能性	5 4 3 2 1	既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。 今後、成果の向上が期待でき、事業継続の必要がある。	3					
			施策への貢献度	5 4 3 2 1	目的は十分達成されており、事業継続の必要性は低い。 施策推進への貢献は多大である。 施策推進に向け、効果を認めることができる。	4					
	効率性	手段の最適性	5 4 3 2 1	現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。 最適な手段であるが、更に民活、他事業との統合・連携等の検討の余地がある。	4	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D	A				
		コスト効率	5 4 3 2 1	活動指標の実績も上がらず、効率的な手段の見直しが必要である。 投入コスト以上の成果を得ており、コスト削減の余地は見当たらない。	4						
		市民(受益者)負担の適正	5 4 3 2 1	コスト削減に向けた取り組みを実施し、それに見合う成果を得ている。 満足する成果にも達せず、まだまだ事業費・人件費の削減余地がある。 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民の負担は適正と認める。	4						
	一次判定 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	5 4 3 2 1	施策の目的を果たすために必要不可欠な事業である。 概ね、施策の目的に沿った事業である。	4	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D	A	事業の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ■ 事業継続と判断する。 <input type="checkbox"/> 事業縮小と判断する <input type="checkbox"/> 事業廃止と判断する (判断の理由) 文化行政として、文化芸術団体の育成及び質の高い文化芸術の提供など文化振興等の充実について、今後も継続実施する必要がある。	
			社会情勢等への対応	5 4 3 2 1	この事業では施策の目的を果たすことができない。 社会情勢等のニーズに合致する。又は、行政管理上必要な事業である。 社会情勢に概ね適合する。又は、行政管理上、概ね妥当である。	4					
			市の関与の妥当性	5 4 3 2 1	社会情勢又は行政管理事務に対応しておらず、見直しが必要である。 市が積極的に関与・実施すべき事業である。 今のところ市の関与・実施は妥当と判断できる。	3					
有効性		事業の効果	5 4 3 2 1	市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。 市民生活や行政内部の課題解決になっていない。	3	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D	A				
		成果向上の可能性	5 4 3 2 1	既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。 今後、成果の向上が期待でき、事業継続の必要がある。	3						
		施策への貢献度	5 4 3 2 1	目的は十分達成されており、事業継続の必要性は低い。 施策推進への貢献は多大である。 施策推進に向け、効果を認めることができる。	4						
効率性	手段の最適性	5 4 3 2 1	現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。 最適な手段であるが、更に民活、他事業との統合・連携等の検討の余地がある。	3	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D	B					
	コスト効率	5 4 3 2 1	活動指標の実績も上がらず、効率的な手段の見直しが必要である。 投入コスト以上の成果を得ており、コスト削減の余地は見当たらない。	3							
	市民(受益者)負担の適正	5 4 3 2 1	コスト削減に向けた取り組みを実施し、それに見合う成果を得ている。 満足する成果にも達せず、まだまだ事業費・人件費の削減余地がある。 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民の負担は適正と認める。	3							
所属長の課題認識	目的の妥当性	5 4 3 2 1	施策の目的を果たすために必要不可欠な事業である。 概ね、施策の目的に沿った事業である。	4	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D	B	文化芸術活動について、団体自身が存続・発展を目指し活動を推進することが望ましく、そのために行政として継続して支援を行い、伝承・保存や発表の場の創出に努め、市民の関心を高め、個性豊かな文化の振興を推進する。				
	社会情勢等への対応	5 4 3 2 1	この事業では施策の目的を果たすことができない。 社会情勢等のニーズに合致する。又は、行政管理上必要な事業である。 社会情勢に概ね適合する。又は、行政管理上、概ね妥当である。	4							
	市の関与の妥当性	5 4 3 2 1	社会情勢又は行政管理事務に対応しておらず、見直しが必要である。 市が積極的に関与・実施すべき事業である。 今のところ市の関与・実施は妥当と判断できる。	3							

施策を踏まえた判断	二次判定	<input type="checkbox"/>	一次判定結果は以下の点について良好と評価し、更なる事業推進を求める。	⇒ 指摘事項を踏まえ、事務改善、事業推進に努め、今年度の事務事業評価シートに反映させること。
		<input type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業継続と判断する。	
		<input type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。	
		<input checked="" type="checkbox"/>	一次判定は以下の点について外部評価が必要と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。	
			行政評価委員会委員選定事業	
		<input type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業縮小と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。	
<input type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業廃止と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。			
<input type="checkbox"/>	既に事業廃止が決定していることから、廃止に向けた手続を行う。			

行政評価委員会の答申	外部評価	<p>答申の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の吹奏楽部や美術部等に所属せず、文化芸術活動をしている中高生がたくさんいる。そういう人たちに手を差し伸べることができればよい。市民の文化芸術活動が注目されるような、援助していくような仕組みづくりを。 ・ホームページから各種取組の情報に辿り着くのは、かなり難しい印象がある。文字情報が多く、それだけで抵抗感がある。写真等を入れて見やすくしたり、音楽が流れたりする等、工夫が必要である。 ・中心市街地に立地していることを生かした取組が必要である。各種イベントが施設内だけで完結するのではなく、郡中のまちなかに賑わいが広がっていくような仕組みづくりを検討してもらいたい。中山・双海への広がりも順次検討を。 ・利用者が固定化し、既得権化するような状態にならないように。個々の団体の運営補助と思われないように注意を。 ・新しい施設ができ、今までにない事業費が増額されている。すでに誰が見ても陳腐化している事業費は、スクラップアンドビルドでやめていく必要がある。 ・団塊の世代や子育て世代というように、ターゲットを絞ったイベント内容や実施方法の工夫を検討されたい。 ・社会体育事業と文化振興事業のコラボレーションを。思いがけない相乗効果が生まれ、面白い取組になるのでは。
------------	------	--

今後の方向性 (ACTION)

の経営者判断	事業の方向性		コメント欄 文化芸術活動の中核となる施設であり、イベント内容の見直しやブラッシュアップを行う必要がある。
	<input checked="" type="checkbox"/>	さらに重点化する。	
	<input type="checkbox"/>	現状のまま継続する。	
	<input type="checkbox"/>	見直しの上、継続する。	
	<input type="checkbox"/>	事業の縮小を検討する。 事業を縮小する。	
	<input type="checkbox"/>	事業の休止、廃止を検討する。 事業を休止、廃止する。	